

スペイン語における前置詞句の数・定性：7前置詞のクラスタリング

著者	喜多田 敏嵩
雑誌名	言語資源活用ワークショップ発表論文集
巻	3
ページ	436-447
発行年	2018
URL	http://doi.org/10.15084/00001677

スペイン語における前置詞句の数・定性

ー7 前置詞のクラスタリングー

喜多田 敏嵩 (東京外国語大学大学院)

Definiteness and Number in the Spanish Prepositional Phrases: Cluster Analysis of Seven Prepositions

Toshitaka Kitada (Tokyo University of Foreign Studies)

要旨

スペイン語学において、名詞句の数・定性は活発な議論が展開されてきた分野であるが、前置詞句の項として生起する名詞句に焦点を当てた研究は少なく、部分的な記述がわずかに存在するのみである。本稿は、スペイン語において最頻出の前置詞である *de* および、*de* と可換な用法を有する 6 前置詞 *con, desde, en, para, por, sobre* の計 7 つを分析対象として、前置詞句の数・定性に関する Fernández Ramírez (1986) および Bosque (1996) の空間指示性による分類的記述の妥当性を検証するものである。データの収集には、コーパス検索ツール Sketch Engine において公開されている 100 億語規模の均衡ウェブコーパス esTenTen [2011, Eu + Am] を使用し、算出された 7 前置詞に後続する普通名詞の単数形生起頻度と、限定詞との共起頻度を 2 変数としたクラスタリングを実行した。その結果、これら 7 つの前置詞は {*con, de, por*} {*desde, en, para, sobre*} の 2 群に分類され、Fernández Ramírez (1986) の挙げる分類基準と、*en* を *con, de, por* と同じクラスターに位置付ける Bosque (1996) の記述に検討の余地があることが分かった。

0. はじめに

名詞句の数・定性は、スペイン語学において活発な議論が行われてきた分野であり、スペイン語と日本語の両方で多くの先行研究が存在する。しかし、その大半は、文における統語機能を果たす名詞句に焦点を当てたものであり、前置詞句内をはじめとする、統語的要請を受けにくい位置にある名詞句の数・定性を体系的に記述した研究は、筆者の管見の及ぶ限り存在しない。本稿は、*de* および *de* と意味の重なりを有する 6 つの前置詞 *con, desde, en, para, por, sobre* の計 7 つについて、後続する普通名詞の数・定性を変数とした階層的クラスタ分析を実施し、Fernández Ramírez (1986) と Bosque (1996) による前置詞句の数・定性に関する部分的記述の不透明性を指摘するものである。

1. 準備

本稿で分析対象とする構造は、〈前置詞＋名詞句〉という語列により構成される前置詞句である。ここでは、英語を参照点としながら、スペイン語の前置詞句を、その構成素に基づいて記述しておきたい。

1.1. スペイン語の名詞句

スペイン語における名詞句は、名詞や代名詞を主要部として構成されるが、名詞を主要部とした場合、付接部には限定詞や形容詞が生起し、寺崎 (1998: 54-57) によれば、一般的

に以下のような構成をとる。

表 1. スペイン語における名詞句の構成

(限定詞)	(修飾語)	名詞	(修飾語)
el ART.DEF.M.SG 'the child'		muchacho child.M.SG	
los ART.DEF.M.PL 'the classic authors'		autores author.M.PL	clásicos classic.M.PL
su ¹ 3.POSS.SG 'his/her/their last trip'	último last.M.SG	viaje trip.M.SG	

1.2. 名詞の語彙素性

名詞句の主要部を果たす普通名詞については、英語と同様に、その語彙素性による分類が可能である。スペイン語における普通名詞の分類については、その素性の複合性から一元的な分類が困難であることが Bosque (1999) や RAE and ASALE (2009) により述べられているが、Bosque (1999) の詳細な分類によれば、普通名詞の語彙的特徴を記述する素性として、可算性 (非連続性)、数量化可能性、個別性、有形性の 4 つがあり、これらの素性を典型的に備えた普通名詞として、以下のような語が挙げられている。

表 2. スペイン語における普通名詞の語彙素性とその例

可算/不可算	可算的	árbol (木), mesa (机)
	不可算的	agua (水), vino (ワイン), plata (銀),
数量化可能性	数量化可能	libros (本)
	数量化不可能	celos (嫉妬), ganas (欲求)
個別/集合	個別的	casa (家), árbol (木)
	集合的	familia (家族), arboleada (木々)
有形/無形	有形的	例示なし ²
	無形的	verdor (活力), temor (恐怖),

本稿では、これら全てを包括した普通名詞を取り扱い、固有名詞を分析の対象外とする。

¹ スペイン語において、3 人称単数 (彼、彼女、それ) と 3 人称複数 (彼ら、彼女ら、それら) の所有形容詞の間には形態上の区別がなく、その解釈は、他の要素との結束性に委ねられる。

² 特別な例示がないのは、有形/無形が他の素性のように明確なものではないことによる。

1.3. 前置詞句

寺崎 (1998: 54-57; 97-98) によれば、前置詞句は、前置詞を主要部、後続する名詞句を被制語とすることで構成されており、*el reloj de oro* (the watch of gold) のように名詞句の後置修飾語として、または (1) のように形容詞句の修飾語として機能する。いずれの場合も、前置詞に後続する名詞句は主要部ではない点に注目されたい。

(1) *Aquella reacción era ajena a su carácter.*

Aquel-la reacción era ajen-a a su carácter.
 that.DEM-F.SG reaction COP.3SG.IND.IPFV far-F.SG from 3.POSS character.
 ‘that reaction was far from his character’
 あの態度は彼の性格とは相容れないものだった。

また、文の構成素としては、(2) 直接補語 (3) 間接補語 (4) 斜格補語³ (5) 付加語の機能を果たす。以下の例 (2)-(5) が上記の各機能と対応している。

(2) *Trataron muy mal a sus clientes.*

Trat-arón muy mal a su-s cliente-s.
 attend-3PL.IND.PST very badly to 3PL.POSS-PL client-PL
 ‘they attended very badly to their clients’
 彼らは顧客に非常に悪い扱いをする。

(3) *Enseñé el camino a un extranjero.*

Enseñ-é el camino a un extranjero-o.
 Tell-1SG.IND.PST ART.DEF.M.SG way to ART.INDEF.M.SG foreigner-M.SG
 ‘I told the way to a foreigner’
 私は外国人に道を教えた。

(4) *No disponía de bastante dinero para comprarlo.*

No dispon-ía de bastante dinero para comprar=lo.
 NEG dispose-1SG.IND.IPFV of enough money to buy.INF=it.ACC.3SG.M
 ‘I didn’t have enough money to buy it’
 私はそれを買うのに十分なお金を持っていなかった。

(5) *Mi hermano y yo dormimos en la misma habitación.*

Mi hermano y yo dorm-imos en la mism-a habitación.
 1SG.POSS brother and I sleep-1PL.IND.PST in ART.DEF.F.SG same-F.SG room
 ‘my brother and I slept in the same room’
 兄と私は同じ部屋で寝た。

³ complemento de régimen preposicional のことであり、前置詞補語という訳も確認される。

このように、前置詞句は様々な統語機能を果たすが、前置詞句内の名詞句は主要部となることなく、項として構造を支えている。

1.4. スペイン語の統語的特徴

本稿に関連するスペイン語の主要な統語的特徴は次の 2 点に大別される。

1 点目は、修飾語句の後置である。英語では、形容詞をはじめとする修飾語句は通常名詞に前置されるのに対して、スペイン語では名詞に後置させるのが通例である。したがって、「危険な動物たち」という名詞句は、両言語で次のように表現されるが、名詞「動物たち」に対する形容詞「危険な」の位置が鏡像的なものとなる。

日本語	英語	スペイン語
危険な動物たち	dangerous animals	animales peligrosos

2 点目は、限定詞あるいは量化表現を伴わない名詞句は文頭への生起および任意の句の主要部を構成しにくいというものである。例えば、「ライオンは危険な動物である」という総称文の主語ライオンは、英語では (6) のように、無冠詞複数形で表すことが可能であるが、スペイン語では (7) にあるように、定冠詞の付与が義務的である。

(6) Lions are dangerous animals.

(7) Los leones son animales peligrosos.

Los	leon-es	son	animal-es	peligros-os.
ART.DEF.M.PL	lion-PL	COP.3PL.IND.PRES	animal-PL	dangerous-M.PL

‘the lions are dangerous animals’

その他にも、両言語間には、文の語順の制約などの特筆すべき差異が認められるが、句のレベルでは、無冠詞単数形が句の主要部を務めることが稀であり、数・定性の付与が一般的に必要である点が、本稿に最も関連するスペイン語の言語的特徴である。

1.5. 名詞句と前置詞句の構成と機能

スペイン語学において、主要部を果たす名詞句の数・定性に関しては様々な見地からの分析が活発に行われているのに対して、前置詞句内をはじめとする、主要部を担わない名詞句の数・定性に関しては、部分的な記述がわずかに散見されるのみである。しかしながら、主要部ではない名詞句は、文の統語的要請を受けにくい位置を占めていることなどから、主要部を果たす名詞句と類似した傾向の数・定性を見せる確証があるとはいいがたい。したがって本稿では、前置詞句内の名詞句に関する数・定性の記述の必要性を出発点として、部分的に存在する過去の論考にもとづきながら、前置詞句の数・定性を体系的に記述するための基盤となる考察を行っていく。

2. 先行研究

2.1. Fernández Ramírez (1986)

管見の及ぶ限りにおいて、前置詞句における冠詞の生起に関する最も詳細な記述を行っているのが Fernández Ramírez (1986) である⁴。Fernández Ramírez (1986: 166-169) は、明確な空間指示機能を有する前置詞は無冠詞単数形を後続させにくいとし、tras, detrás de, junto a, encima, desde, debajo, hasta, sobre, dentro の 9 つの前置詞 (句) を挙げている。

2.2. Bosque (1996)

スペイン語の無冠詞名詞句に関する詳細な記述を行っている Bosque (1996: 53-55) は、無冠詞名詞単数形が前置詞に後続する構造の容認度の低さに触れながら、実際に無冠詞名詞単数形が項となって形成される前置詞句の特性に関する記述を行っている。その中で、前述の Fernández Ramírez (1986) の分類基準を参照しながら、con, de, en, por の 4 つを、無冠詞名詞単数形を後続させやすい前置詞であるとしている。

2.3. 問題の所在

ここまで、本稿の分析に有用な 2 つの先行研究を挙げたが、これらの論考が、en をうまく分類しえない記述となっている点を問題として指摘したい。Fernández Ramírez (1986) は、明確な空間指示性の有無により前置詞の分類を試みていたが、この性質が確固とした指標であるとは言いがたい。また、Bosque (1996) の挙げる 4 つの前置詞 con, de, en, por において、en は英語の at, in, on に相当する前置詞であり、空間的意味を有している。したがって、空間指示性の強弱を尺度にした分類において、en が弱者に分類されるというのは、スペイン語学習者としての経験的印象に反するものであり、前置詞に後続する名詞句の数・定性を分類する尺度としての空間指示性の強弱は、その適性に疑問が残る。

本稿では、コーパス調査を通じて、Bosque (1996) の挙げる 4 前置詞が、後続名詞句の数・定性について同様の分布を見せるかを検証し、先行研究の挙げる分類尺度の不透明性を考察する。

3. 分析手法

3.1. 分析対象の限定

本稿で分析対象とするのは、普通名詞が限定詞や複数語尾を伴って前置詞に後続する語列であるが、分析にあたって各品詞の定義を決めておかねばならない。普通名詞については、前述のとおり、固有名詞ではない名詞の類とし、限定詞については、寺崎 (1998) の定義にしたがうことにする。寺崎 (1998: 75) によれば、スペイン語の限定詞には、冠詞、指示形容詞、所有形容詞、関係形容詞、疑問形容詞、数詞、不定形容詞の 7 つが該当するが、本稿では、4.1. で後述する理由から、関係形容詞と数詞を除いた 5 つを限定詞とする。

また、前章で挙げた先行研究では、意味の重なりが考慮されていない多数の前置詞が記述されている。そこで本稿では、López (1972) の記述に依拠しながら、スペイン語において最頻出の前置詞 de と、de に関連のある前置詞のみを分析対象とする。López (1972) は、スペイン語における前置詞の意味の対立・中和について図式などを用いた詳細な分析を行っており、その中で de との意味の中和を有し、可換な場合がある前置詞として、con, desde,

⁴ Solís García (2011:111) 参照。

en, para, por, sobre の 6 つを挙げている。なお、de を含めたこれら 7 つの前置詞は、英語では、主に以下のような前置詞に該当する。

表 3. 7 前置詞の英語対照表

con	de	desde	en	para	por	sobre
with	of	from since	in on	for to	because of by	over about

そして 6 前置詞は、以下のような場合に de と置換可能である⁵と述べられている。

表 4. de と置換可能な例

日本語	英語	de を使う場合	可換な例
雪に覆われた	covered with snow	cubierto <u>de</u> nieve	cubierto <u>por</u> la nieve
マドリッドから来る	come from Madrid	viene <u>de</u> Madrid	viene <u>desde</u> Madrid
1 つのティーセット	a tea set	un juego <u>de</u> té	un juego <u>para</u> té
赤く塗られている	painted red	pintado <u>de</u> rojo	pintado <u>en</u> rojo
人生について話す	to talk about life	hablar <u>de</u> la vida	hablar <u>sobre</u> la vida
グラス 1 杯の水	a cup of water	un vaso <u>de</u> agua	un vaso <u>con</u> agua

前述の Bosque (1996) が挙げる 4 前置詞 con, de, en, por は、これら 7 つの前置詞 con, de, desde, en, para, por, sobre に包含されている。Bosque (1996) の挙げていない 3 つの前置詞のうち、desde, sobre は Fernández Ramírez (1986) が空間指示性を持つものとして挙げており、記述のない para についても、その空間的意味に加えて、pro/per + a、すなわち pro あるいは per に a が付随して形成されたものであるとする通時的見解⁶に留意すれば、後続する被制語の名詞句に数・定性を求めやすい a⁷ と類似した分布を見せることが予想される。したがって、López (1972) の挙げる 7 前置詞は、後続名詞句に数・定性を求めにくい con, de, por と、求めやすい desde, para, sobre、そして両者に属する可能性がある en により構成されていることから、本テーマに適した分析対象であると言える。

3.2. 分析の手順

本分析の手順は、以下のとおりである。まず、既存のスペイン語コーパスから、7 前置詞に後続する名詞句に関する数・定性の頻度を収集し、その後データを標準化することで、各前置詞に関する変数を導出する。そして、求めた変数を用いて 7 前置詞に関する階層的クラスター分析を実施し、形成されたクラスターを考察する。なお、変数間の非類似度の算出にはユークリッド距離を、クラスター間の距離算出にはウォード法を使用する。また、分析には統計ソフト R を使用する。

⁵ 表 4 は López (1972) の挙げる例を引用したものであるが、一部修正して掲載している。

⁶ para の形成に関しては、pro + ad > pora > para とする見解 (RAE, 2014) と、per + ad > (par+ ad) pora > para (Coromines and Pascual, 1985) とする見解があるが、いずれの形も a の要素 (ad) を有している。本稿では、para の形成に関する議論に関しては態度を保留し、a を含んだ前置詞であるという見解の一致のみを援用する。

⁷ 前置詞 a に後続する名詞句の数・定性の明確性は Bosque (1996: 78-79) などと言及されている。

3.3. 使用コーパスの詳細

本分析では、esTenTen [2011, Eu + Am] というコーパスを使用する。esTenTen [2011, Eu + Am] は、コーパス検索ツール Sketch Engine にて公開されているコーパスであり、2011 年に公開されていたスペイン語圏 19 か国のウェブページをもとに構築されたスペイン語均衡ウェブコーパスである。総収録語数は約 95 億語となっており、筆者の管見の及ぶ限り、約 450 億語を収録する通時コーパス Google Books に次ぐ、最大規模のスペイン語コーパスである。スペイン語には大別して、スペインで用いられるヨーロッパスペイン語と、中南米で用いられるアメリカスペイン語があるが、このコーパスを分析に用いる理由は、スペイン・中南米両地域のデータを豊富に含んでいる点と、CQL (Corpus Query Language) を用いた柔軟な検索が可能である点による⁸。

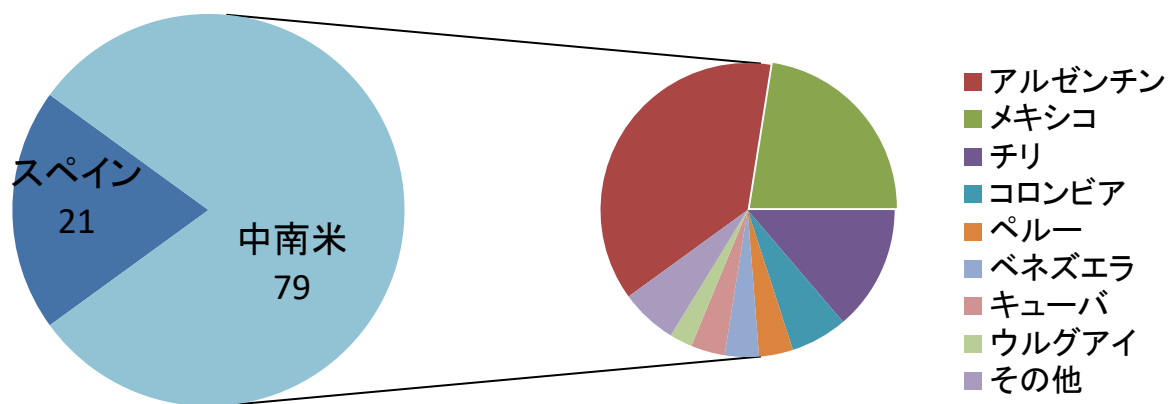


図 1. esTenTen [2011, Eu + Am] の構成国内訳

4. 分析

4.1. データ収集

コーパスからデータとして収集したいのは、限定詞・複数語尾を伴った名詞句が 7 前置詞に後続する語列、すなわち con NP, de NP, desde NP, en NP, para NP, por NP, sobre NP である。しかし、前述のとおり、スペイン語には後置修飾句・節が頻繁に生起するため、後続する語列に何らかの制限を設けないと、NP の数・定性を、前置詞か NP のいずれかに求めることができなくなる可能性がある。したがって、抽出する語列を「前置詞+(限定詞)+普通名詞+ピリオド」という構造に限定して検索式を作成した。以下がその詳細である。

品詞タグ

普通名詞	普通名詞単数形	限定詞 ⁹	ピリオド
NC	NC.S	D	Fp

⁸ 詳細は Kilgariff et al. (2014) や Kilgariff and Renau (2013) 参照。

⁹ コーパスの限定詞タグ D には数詞と関係形容詞が含まれていない。しかし、数詞は他の限定詞との共起が唯一可能である点から、純粋な限定詞ではないと言えないため、分析から除外した。関係形容詞についても、直後にピリオドが来る語列には表れにくい語であるため、分析対象外とした。

検索式 1 : [word=“前置詞”][tag=“NC.*”][tag=“Fp”]

抽出例: con discapacidad. (障害を抱えて), para niños. (子供のために)

検索式 2 : [word=“前置詞”][tag=“D.*”?][tag=“NC.S*”][tag=“Fp”]

抽出例: desde el exterior. (外から), sobre la salud. (健康に関して)

検索式 1 は、普通名詞が限定詞を伴わず 7 前置詞に後続し、直後にピリオドが来る語列を抽出する式であり、これをもとに高頻度上位 100 の普通名詞の総用例数に占める、単数形用例数の相対頻度 α を導出した。また、検索式 2 は、普通名詞単数形が限定詞を任意で伴って前置詞に後続したのちにピリオドが生起する語列を抽出する式であり、これにより、高頻度上位 100 の普通名詞単数形の総用例数に占める、限定詞を伴わない用例数の相対頻度 β を導出した。なお、普通名詞のタグ NC/NC.S で抽出された語が以下に該当した場合は、ノイズとして除外した。

- A) 固有名詞: internet, iPhone など
- B) 代名詞: ti (前置詞格代名詞 2 人称単数形) など
- C) 副詞: atrás (後ろへ), mañana (明日) など
- D) 月を表す名詞: enero (1 月), febrero (2 月) など
- E) 規範的でない、あるいは正書法に即していない表現: tod@s (みんな), dia¹⁰ (日) など
- F) 複合名詞のため、形態上単複の区別がつかないもの: portaaviones (空母) など
- G) 名詞の語彙素性が数性を帯びているもの: tijeras (ハサミ), pantalones (ズボン) など
- H) 使用が特定の地域に集中している語: camote (サツマイモ), ómnibus (バス) など
- I) その他: URL など

以上の操作から導出された 2 変数 α, β と、 α, β を標準化した Z_α, Z_β は次のとおりである。

表 5. α, β および Z_α, Z_β の数値¹¹一覧

	α	β	Z_α	Z_β
con	0.91	0.44	0.66	0.78
de	0.78	0.55	0.11	1.27
desde	0.77	0.06	0.03	-0.92
en	0.97	0.22	0.98	-0.20
para	0.28	0.02	-2.18	-1.09
por	0.94	0.55	0.81	1.24
sobre	0.67	0.02	-0.41	-1.08

4.2. 数性・定性の無相関検定

本稿では、7 前置詞をケース、 Z_α, Z_β を変数としたケースクラスター分析を実施するわけであるが、その前に 2 変数 Z_α, Z_β の母集団である、前置詞に後続する名詞句の数性と定性

¹⁰ tod@s は todos (全員) の男女両形を総称する非規範的な表現である。dia には、正書法上必要なアクセントが付されていない。

¹¹ 数値は小数点第 3 位を四捨五入して表記している。

における相関の有無を確認しておきたい。帰無仮説 H_0 を「母相関係数は 0 である」、対立仮説 H_1 を「母相関係数は 0 ではない」として t 検定を行うと、2 変数 Z_α, Z_β の相関係数 r は 0.61 となり、検定統計量 T は 1.72 となる。これは自由度 5 の t 分布にしたがうので、検定量 T は有意水準 5% の臨界値 2.57 を下回る。よって、帰無仮説 H_0 は棄却されず、数・定性の相関は有意なものであるとは言えない。したがって、本分析では、これらの標本である Z_α, Z_β を独立した 2 変数であるとして、クラスタリングに使用する。

4.3. クラスタ分析

以上をふまえ、統計ソフト R を使用して、7 前置詞をケース、 Z_α, Z_β を変数とする階層的ケースクラスタ分析を実行した。ユークリッド距離にて算出したケース間の距離を示した非類似度表、2 変数を軸とした平面上に占める各ケースの座標を示した散布図と、ウォード法を用いたクラスタリングの樹形図は以下のとおりである。分析の結果、7 前置詞から {con, de, por} {desde, en, para, sobre} の 2 つのクラスターが形成された。

表 6. 非類似度表

	con	de	desde	en	para	por	sobre
con							
de	0.73						
desde	1.82	2.19					
en	1.03	1.70	1.20				
para	3.41	3.29	2.21	3.28			
por	0.48	0.70	2.30	1.45	3.79		
sobre	2.15	2.41	0.47	1.65	1.77	2.62	

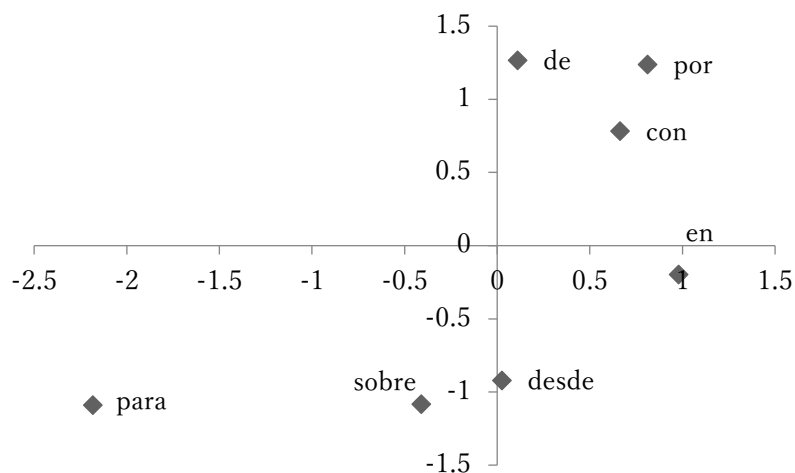


図 2. 散布図

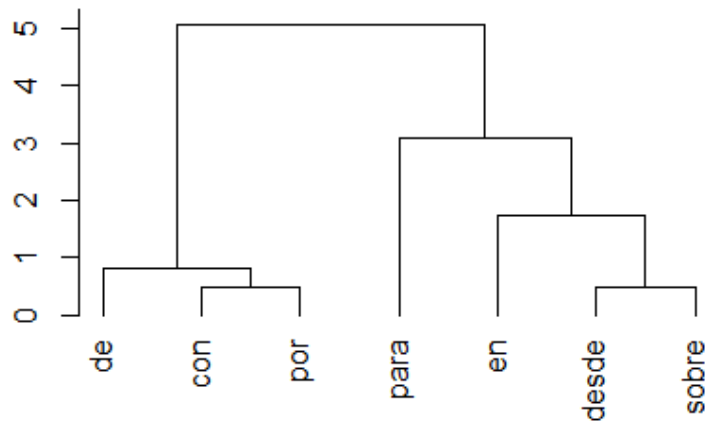


図 3. デンドログラム

4.4. 分析結果の考察

クラスタリングの結果、7 前置詞は {con, de, por} {desde, en, para, sobre} の 2 群に分類され、Bosque (1996) の挙げる 4 前置詞は同様の分布を見せず、2.3. にて挙げた事項が、検討の余地を残している問題であることが分かった。

しかし、散布図における 7 前置詞の座標を確認してみると、en が {con, de, por} と {desde, para, sobre} の中間に位置していることが分かる。デンドログラムでは、en が早い段階で後者のクラスターに組み入れられているが、これは para の孤立が関与しているものであり、en と {con, de, por} の分布上の類似性は否定できるものではなさそうである。したがって今後は、en の数・定性に留意しながら、空間指示性を補いうる何らかの指標を考案することで、前置詞句の数・定性に関する複合的な分類記述を試みるのが賢明であると言える。先行研究の唱える空間指示性は、各前置詞の意味に関する尺度であったが、統語・形態に関しても、それぞれ以下の尺度を想定できる。統語的尺度に関して、con, de, en, por は、関係代名詞と共起する際に定冠詞の付与が任意となる性質を共有している¹²。たとえば、以下の (8) では、下線部が a la que (to the which) ではなく a que (to which) となって、定冠詞単数女性形 la が省略されている。

(8) Esta es la persona a que me refería antes.

Est-a	es	la	persona	a	que	me	refería	antes.
this-F.SG	COP.3SG.IND.PRES	ART.DEF.F.SG	person	to	REL	REFL.1SG	refer-1SG.IND.IPFV	before

‘this is the person that I referred to before’

また、形態レベルでは、単音節性が共通の性質として挙げられる。3.1. において para の

¹² RAE and ASALE (2009: §44.2e) 参照。本稿では扱っていないが、a も含まれる。

成り立ちを考察したが、para をはじめとする複音節の前置詞の中には、複数の語が組み合わさって現在の形となり、結果として、より具体的な意味を有しているものもある。たとえば、desde はラテン語の前置詞句 de ex de の縮約形であり (Coromines and Pascual, 1985)、複音節性と意味の具体性の相関も検討すべき尺度であると言える。

5. むすびにかえて

本稿では、これまでに体系的な分析が行われていない、スペイン語における前置詞句の数・定性について、Fernández Ramírez (1986) および Bosque (1996) が用いた空間指示機能の強弱が、分類の指標として適当であるかを、クラスター分析を通して考察した。その結果、7 つの前置詞 con, de, desde, en, para, por, sobre は {con, de, por} {desde, en, para, sobre} の 2 群に分類された。これにより、Bosque (1996) が後続名詞句に数・定性を求めにくい前置詞として挙げる con, de, en, por の分布の不一致が確認され、分類基準としての空間指示性の不透明性が明らかになった。これに伴い、本稿では、先行研究がとった意味的分類を補う形態・統語的分類基準の想定も試みた。今後の研究では、前置詞句の数・定性を、形態・統語・意味の 3 つの視座から分析し、複合的な体系記述を行っていきたい。

最後に、本稿で明らかになった 2 点の研究課題を挙げる。1 点目は、コロケーションとの親和性に着目した調査である。本稿のコーパス調査で得られた無冠詞の前置詞句の中には、イディオムとして学習書などで見られるものが相当数存在した。ゆえに、コロケーションの生産性と無冠詞名詞句の後続頻度の関連性を考察していくことが求められる。2 点目は、地域的有意差の検定である。本稿では、語彙以外に地域的差異の影響が表れることはないという立場をとったが、前置詞句の数・定性に関する体系的記述には、地域的有意差の有無を分析していくことも必要である。

謝辞

本稿は、日本ロマンス語学会第 56 回大会 (2018 年 5 月 12 日 於 京都大学) にて行った発表「スペイン語における前置詞後続名詞の数・定性—名詞の現働化による 7 前置詞のクラスタリング—」に一部修正を加えたものである。

略号一覧

-	inflexion	DEM	demonstrative	PL	plural
=	clitic boundary	F	feminine	POSS	possessive
1	first person	IND	indicative	PRES	present
3	third person	INDEF	indefinite	PST	past
ACC	accusative	INF	infinitive	REFL	reflexive
ART	article	IPFV	imperfective	REL	relative
COP	copula	M	masculine	SG	singular
DEF	definite	NEG	negative		

参考文献

- Bosque Ignacio (ed.) (1996): *El sustantivo sin determinación*, Visor Libros.
- Coromines Joan and Pascual José Antonio (1985): *Diccionario crítico etimológico castellano e hispánico*, Gredos.
- Fernández Ramírez Salvador (1986): *Gramática española* (2.^a ed.), vol.3.2: *El pronombre*, Arco-Libros.
- 藤田健 (2011)「フランス語とスペイン語における不定冠詞の分布について」『北海道言語文化研究』北海道言語研究会, 9 号, pp. 1-22. (https://muroran-it.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=5375&item_no=1&page_id=13&block_id=21 よりダウンロード可能)
- Kilgarriff Adam, Baisa Vít, Bušta Jan, Jakubíček Miloš, Kovář Vojtěch, Michelfeit Jan, Rychlý Pavel and Suchomel Vít (2014): “The Sketch Engine: ten years on”, *Lexicography*, 1, pp. 7-36. (https://www.sketch.engine.eu/wp-content/uploads/The_Sketch_Engine_2014.pdf よりダウンロード可能)
- Kilgarriff Adam and Renau Irene (2013): “esTenTen, a vast web corpus of Peninsular and American Spanish”, *Procedia-Social and Behavioral Sciences*, 95, pp. 12-19. (https://www.sketchengine.eu/wp-content/uploads/esTenTen_web_corpus_of_Peninsular_and_American_Spanish_2013.pdf よりダウンロード可能)
- López María Luisa (1972): *Problemas y métodos en el análisis de preposiciones*, Gredos.
- RAE (Real Academia Española) (2014): *Diccionario de la lengua española* (23.^a ed.), (<http://www.rae.es/rae.html> よりアクセス可能 2018 年 8 月 27 日確認)
- RAE and ASALE (Real Academia Española and Asociación de Academias de la Lengua Española) (2009): *Nueva gramática de la lengua española*, Espasa Calpe.
- Solís García Inmaculada (2011): *El concepto de referencia y su utilidad en la didáctica del español como lengua extranjera*, Tesis doctoral, Universidad de Oviedo. (<https://www.tdx.cat/bitstream/handle/10803/79991/UOV0090ISol%C3%ADs%20Garc%C3%ADa.pdf?sequence=6&isAllowed=y> よりダウンロード可能)
- 寺崎英樹 (1998)『スペイン語文法の構造』大学書林.

使用コーパス

- Sketch engine. esTenTen [2011, Eu + Am] (9,497,213,009 palabras): (<https://www.sketchengine.eu/> よりアクセス可能 2018 年 9 月 9 日確認)